



小沢良一 tel 992-0875 fax993-8141 深良27-2
ホームページ)http:www16.plala.or.jp/ozawa_ryouti

明るい裾野



岡本和枝 Tel/Fax992-5174 茶畑 854-3E101
(ブログ)岡本和枝のひまわり畑 カバもいる
peace_love_cabird@yahoo.co.jp

党ができて91年間、弱い者、困っている人の味方一直線の共産党。

困ったことは小沢、岡本のなんでも相談へ

①驚きの訪問診療の診療報酬改定 ②消防業務広域化で動き始める ③裾野警察署へ交通安全施設の設置 改善を申し入れました ④新緑鮮やか風薫る静岡県母親大会でした

厚生労働省が3月に異例の緩和策 驚きの訪問診療の診療報酬改定

病院や診療所に支払われる診療報酬は、国が医療行為ごとに価格を決めています。4月の報酬改定で、在宅療養計画をつくり月2回以上定期的に訪問診療する場合の「在宅時医学総合管理料」などが、高齢者の集合住宅など同じ建物の居住者を同じ日に複数人診ると約4分の1まで減額されてしまいました。

この管理料は在宅医療を行う医療機関にとって経営上大きな比重を占めています。同様に基本料金にあたる「訪問診療料」もほぼ半額に減額されました。

このことについて国は、多くの患者をまとめて短時間で診たり、業者や施設がマージンを取って患者を斡旋する「患者紹介ビジネス」のような「在宅医療の不適切事例を正す」と説明しています。

しかし一部の不適切事例と、まじめに在宅医療にとりくむ医療者を区別せず、

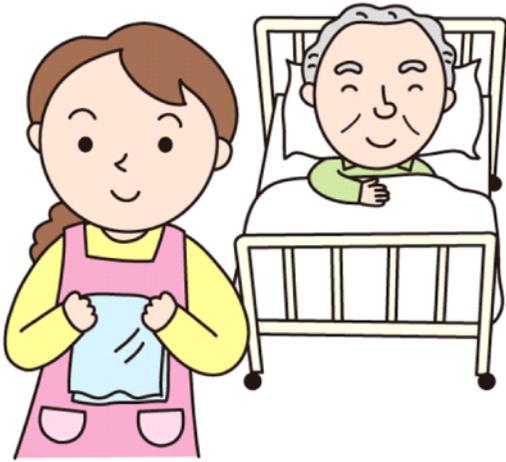
一律75%も減額する改定案(2月)に、幅広い医療・介護関係者などから批判が広がり、厚生労働省は3月に異例の「緩和策」をだしました。

それは、月2回の訪問のうち1回はまとめて診療し、あとの1回は1日に1施設1人だけの診療であれば、診療報酬は減らないという内容。(もし30人定員のところは30日1人の診療の為に訪問するということ?)

サービス付き高齢者向け住宅の訪問診療点数が約4分の1に一瞬信じられず

友だちのお母さんが、サービス付き高齢者向け住宅に入居。安否確認と生活相談が、必須のサービスというが月々15万円以上の入居利用料は厳しいとこぼしていた。特に訪問診療の料金、5,000円/月への疑問を口にしていた。

ところが今回の診療報酬改定でサービス付き高齢者向け住宅や老人ホームへの訪問診療点数が引き下げられ、一挙に710円/月に引き下げられたという。



診療を行う場合、一軒一軒患者さんの家を回るより、同じ建物内を回診するほうの診療報酬を低くするということ？

「同一建物居住者に対する、『在宅時医学総合管理料』」の問題らしい。

利用者にとって負担が減るのはうれしい話。これまでと同じ医療が受けられますように。しかし、医療機関や施設にとっては大問題です。

消防業務を裾野市・三島市・長泉町の2市 町で行う方向で動き始める

国の総務省消防庁は、市町村が単独で実施している消防業務を市町村がまとめて広域で業務を行う様に都道府県に要請。都道府県は自らの自治地域の市町村の組み合わせ案を提示して消防広域化の促進を図るべく動いてきた。静岡県のは富士川以東の市町は沼津を拠点にして伊豆半島の自治体まで一つに消防業務圏にする構想を提示してきたが、あまりにも広く財政負担問題ありこの構想案は前に進むことはなかった。

裾野市は三島市と長泉町の2市1町で

消防広域研究協議会を発足させて、2市1町の通信指令センターを三島市消防署に置き、通信のデジタル化に向けて費用を出し合って通信システムの準備を進めている。現在裾野市の消防業務通信は、沼津市・三島市・裾野市長泉町・清水町の3市2町で行っているが、デジタル化後の通信指令は沼津から三島に移る。

5月12日に開催された議員協議会で高村市長は「2市1町の広域消防運営計画」で2016年（平成28年）4月1日を期日に広域化について協議していくと説明されました。

共産党議員団は広い地域の消防業務ではなく地域に根差した消防業務を進めることを主張してきましたので2市1町の広域化に向けての異議はありません。ただ住宅や事業所の高層化ではしご車が必要、事業所での化学部質での火災による消火活動に必要な化学消防車の必要性など都市計画や事業業務内容で消防機材や車両の購入に多額な費用を要することになります。

広域化になりますと市消防職員は「一部事務組合」の行政組織となり市職員でなくなります。また消防団組織は分署を拠点に引き続き活動することになります

日本共産党裾野市議団（小澤良一、岡本和枝）と裾野支部長・岩井よしえが裾野警察署管内交通安全施設の設置・改善を申し入れました

歩行者・車分離信号であることの表示と徹底措置など、どこをどのようにすれ

ばより安全になるのか、次の 14 カ所の写真と地図をつけて裾野警察署に申し入れました。

- ①中央公園入口（西中学校入口）信号
- ②富岡支所前信号
- ③富岡第一小山神社信号
- ④深良南堀交差点に歩行者用信号の設置

歩行者用信号機のない深良南堀の交差点



- ⑤西中東側の歩車分離信号の周知と設置
- ⑥二本松交差点歩車分離式信号へ変更
- ⑦中川商店前交差点へ横断歩道の標示追加を行い歩車分離信号へ変更



歩行者を考えた交差点にして欲しい

- ⑧向田小学校通学路変更にあわせ横断歩道の標示（鈴原入り口、鈴原中）新設
- ⑨茶畑今関ガソリンスタンド前交差点に◇マークペイントを
- ⑩停止線位置を後退させる（茶畑和泉）等々 14 カ所



新緑鮮やか風薫る5月11日の母の日に第52回静岡県母親大会が静岡県立湖西高校で開催されました



参加されたAさんに寄稿いただきました

私は「東北・フクシマ」被災地を忘れない」という特別企画の分科会に参加しましたので、助言者のお話も交え紹介します。

最初に陸前高田市の津波のDVD上映されました。テレビ等で何回か見っていますが、いつ見ても涙が込み上げてきます。分科会の助言者は東北交流館（浜松市）の30代の若い元館長さんでした。福島の大震災で避難する前の彼は、福島第一原発の下請けの現場監督の仕事をしていました。たまたま、喫煙室でたばこを吸っていた時に大地震が興り、部屋の天井が崩れ落ち、灰皿（台付）のお陰で隙間ができ命拾いをしたそうです。

彼の職場までの通勤時間は通常10分ですが、その日は信号が止まり道路は寸断され、倒壊した建物が道路を塞ぎ、自

宅に辿りつく着くのに3時間もかかりました。

彼は消防分団に所属していました。家族の無事を確認し、直ちに分団の消防車を出そうとしましたが、瓦礫でいっぱいになった道路は車が走れる状況ではありませんでした。しかし、消防分団員としての自覚から付近を見廻ろうと自宅のバイクで出かけました。

海の近くまで行くと、人の声が聞こえてきて、近付いて見ると泥の中から必死に「助けてくれ～」と叫んでいる声が聞こえました。分団員は救助のために手を出すことは出来ないという決まり(法律)があるそうですが、救急車や警察が救助に来れる状況ではなかったもので、法を破ってでもこの人を助けなければと必死に相手の手を引っ張り助けました。

その生々しい話に驚き、当時被災地の状況がいかに酷かったかがうかがえます。

震災後3年が過ぎましたが「3年前と1年前に撮った写真は全く変わっていません」と、少し声を荒げて話していました。1日だけ避難解除が出され、実家に戻ると、家の中がねずみのフンだらけでとても人が住める状態ではなく、ねずみが柱を食いちぎり、あと数年で自宅が潰れてしまうでしょう、と言ってました。また、今この自宅に1年間住んだとすると、400年分の放射能を浴びる程に数値は高いそうです。

彼の親は仮設住宅で2年間暮らしましたが、ベニヤ板1枚の仕切りに我慢が出来ず、今は民間の貸家に住んでいるそうです。双葉町で生まれ育った父親は「最後まで実家の土地を守る」もし、東京電

力から土地を売ってくれと言われても「土地は売らないが貸してやる」と言ってやり「東京電力に一生賠償責任をさせる」と怒っているそうです。

国や東電の言ってることは二転三転。賠償責任の問題は見通しがつかず、また義援金はどのように使われたのかも不透明で全然わからない。

当時は避難区域も時間が経つにつれどんどん広がり、はっきりした理由がわからないままにバスに乗せられ、挙げ句の果てに移動したところはホットスポットで放射能が一番高いところだったそうです。

「東京オリンピックに莫大なお金を使わないで、被災地に使ってほしい」との言葉に参加者の皆さんから大きな拍手が沸き起こりました。

「国も東電も、そして議員も誰も信用できません。実家に帰りたくても帰れないのが1番悔しいです」と声を詰まらせていました。

今年の3.11で東北交流館は閉館しましたが、多くの方々に被災地を見て知ってもらいたいし忘れてほしくないです。今はあちこちで講演をしたり、バスツアーも計画し現地を案内しているそうです。皆さんも是非被災地に足を運んでください、と強く訴えていました。

津波が来た時は、より遠くに避難するよりも、より高い所の“鉄骨の建物”に逃げるのが大事で、津波からの逃げ道を常に5本位考えていると咄嗟の時に役に立つと言っていました。

是非、みなさん東南海地震に備え参考にしてください。

そして被災地を見に行きましょう。